1997年7月29日

ヴィーナス通信

Venous（静脈） Venus（護美の女神）

第5号

発　行　東多摩再資源化事業協同組合
理事長　紺野武郎　編集長　吉浦髙志
東京都東村山市久米川町1-16-5
TEL& FAX　0423-95-9788

古紙余剰問題研究会が発足！

理事長　紺野武郎

古紙の余剰化が問題になって一年になろうとしている。業界は決起大会やデモ行進を実施し、市民団体の支援活動などもあって、マスコミにも大きく取上げられてきたが、今だ解決策は見出だせない。ここにきて、雑誌古紙の家庭備蓄依頼や焼却処分をしている自治体も出て、古紙リサイクルそのものを危ぶむ声も聞かれ出した。

一方回収業者は、古紙価格だけでは、絶対に回収できなくなり、産業古紙は排出企業に処理料を負担してもらい、家庭古紙は集団回収に各市からの助成を頂いて、辛うじて維持できるのが実情だ。

去る五月二八日、通産省の肝煎りで（財）古紙再生促進センターに『古紙余剰問題研究会』が発足し、永田勝也早大教授を座長として、通産省・東京都・製紙連合会・日本雑誌協会・日本新聞協会・日本印刷産業連・全原連・日資連・古紙市民ネット・などの代表者が委員となった。

七月四日の研究会には各委員のプレゼンテーションを行ったが、先陣を切って回収現場から実感した余剰対策や問題点など日資連からの各種提言の発表をする機会を得た。

まず、恒久的な余剰対策を考えるには、質量ともに安定した民間の古紙回収システムを維持拡大することが大前提であることを説明して委員各位の同意を得た上で、

①毎年、純パルプものの生産が急増している大手家庭紙メーカーとその販売に対して、

②年間三六〇万トンの新聞と二〇〇万トンからの折込みチラシを全国津々浦々に宅配している新聞業界に対して、

③年六〇億冊以上の書籍・雑誌を発行している、出版業界等に対して、

④電話帳の全国発行部数は、約二億冊とも言われ毎年二〇万トン近くの用紙を使用しているＮＴＴに対して、

⑤パソコン・ワープロ等の説明書・カタログ・関係雑誌などに年間二十万トンからの上質紙が使われ、各種ダイレクトメールにも必要以上の上質コート紙が使われている。これら関係業界に対して、

⑥古紙や紙・板紙などの大幅な輸入超過状況に対して、

夫々具体的な問題提起をした。新たな余剰化対策に巨費を投じる前に、一企業がそして一業界が、ほんの僅かな対策を講ずるだけで、何万、何十万トン単位で紙の節約や古紙の再利用が可能であることを真剣に考え、各界の利害を越えた討論に最良の結論が見出だせるよう、今後の研究会の動向を注目して行きたい。

直言拝聴

ごみ問題はごみのような問題か

東京大学助教授
東久留米市廃棄物減量等推進審議会々長　佐藤　八十八
柳泉園組合廃棄物処理に関する懇談会々長

有吉佐和子の小説で有名になった華岡青州が使った麻酔薬は、トリカブトとチョウセンアサガオを主体とした自家製の麻酔薬です。トリカブトやチョウセンアサガオという呼び方は和名といい、日本でしか通用しない呼び方です。チョウセンアサガオはマンダラゲ（曼陀羅華）あるいはキチガイナス（気違い茄子）ともいわれます。トリカブトと同様に、チョウセンアサガオも強力な麻酔作用をもつ毒草です。チョウセンアサガオはその名前からすると、朝鮮原産のように思いがちですが、植物図鑑によると朝鮮原産ではありません。にもかかわらず、別名キチガイナスと和名がついている植物をチョウセンアサガオとよびます。これを朝鮮の人が聞いたならば、激怒するか実に嫌な感じを抱くでしょう。そこに日本人の朝鮮人に対する差別意識を察知するからです。これと似たことが、「ごみ」に関して存在しているように思えます。私がそのことに気が付き初めましたのは、「ごみ箱あさり」をし始めてからです。私の「ごみ箱あさり」は突然始まったわけではありません。思いかえせば、バブルの始まりの時期と重なっています。当時、大学は教室の机を入れ替え始めておりました。古くなった机が野ざらしにされた後、火をかけて燃やされていたのです。それが如何にも残念で、めぼしい板を集め初めました。机の入れ替えに始まって、木材で作られた古い備品が次から次へと廃棄されました。古材を使用する際には、注意を要しますしたいへんな手間もかかります。しかし、材木を挽いている時、彫っている時あるいは研いている時に、その木独特の匂いがしてきます。それが何とも魅力なのです。

こんなことをしていて「ゴミ箱あさり」が高じて「ごみのやまい」へと進行し始めました。東久留米市の廃棄物減量等推進審議会に入り、ついに病が膏肓に達した気がします。本も少し読みました。そこで気になる表現に出くわしました。清掃課に勤務している人が「子供が学校に出す調書に清掃課勤務と書けない」と発言しているものでした。このことが私に実に生々しく伝わってきました。このような事態が、残念ながらこの国に存在していると私には思えるのです。おかしなことに、教師も親も子供達もそして地域の人々も含めてすべての人々が、職業に貴賤はないことを知っているのです。ところがどういう訳か、誰もがただ知っているだけのことです。また、調書を出す親の側にしてみると、もしもそれを書いてその内容が人に知られた場合の周

りの人々の対応と、その対応対してクレームをつけた時の周りの人々の反応も知っているのです。それ故、「清掃課勤務」と書く事を止めるのです。人種差別、障害者差別、職業差別を初めとして色々な差別が私達の社会には存在しています。

人種差別は様々な国に存在しております。アメリカにあることはよく知られております。しかし、人種差別に対するアメリカと日本の大きな違いは、それが存在しているか否かの現状の認識にあると私には思えるのです。アメリカの社会は人種差別は厳然として存在しているという認識に立っているからこそ、それをどのように克服してゆくのかについて、社会的に知恵を絞っているように私には思えるのです。

差別はそれをしている側の人にとっては、それが差別であることが分からないという側面がありますが、さらに私達には差別意識や差別感覚に対する無自覚性が生まれてくる土壌も存在しているように思えます。差別意識や差別感覚に自ら気が付くことは、つらいことですし、被差別側から糾弾されると逃げ場もありません。しかし、それでもなお社会に存在する様々な差別を一つ一つなくしてゆかねば、人間は賢くはなりません。差別意識や差別感覚の欠如している私達は、差別は「臭いもの」であることを自ら知っているのではないかと思えるのです。「臭いもの」であるからこそ、それを消してしまいたいという欲求が出ているのではないでしょうか？「臭いもの」や汚いものから離れて自分はきれいに生きたいと願っているのではないでしょうか？自分のなかや社会に存在している差別意識や差別感覚を、臭いものには蓋するように閉じこめてしまったならば、閉じこめていること自体がもっとも「臭いもの」である証明になります。こんなふうに考えるのは、ひねくれているかも知れません。なにを好き好んで物事を複雑にし針小棒大にほじくりだすのか、そんなことをしてなにか利益があるのか、といった反論を受けることがままあります。おそらく、私のヘソが曲がっているのでしょう。でも、やはり「清掃課職員」、「廃品回収業者」、「下水処理業者」、「糞尿処理業者」、「朝鮮人」「中国人」、「アイヌ人」と正々堂々と書ける社会の方が、私にはまともに思えるのです。

我が国における今日的なごみ問題の発生は、人の活動度の増加に伴って生まれてきた問題でしょう。ものの流れの増大と流れ方の革新によって、ごみを出す代わりに人々は自由度の増加と健康と安全を手に入れてきたのです。その量が余りにも大きくなり過ぎて、人間自身の健康と安全を脅かそうとする事態に到ったが故に、廃棄物処理がごみ問題として発生したのでしょう。今日起こっているこの問題は、基本的にものの流れに依存する問題ですから、今日の科学技術と経済とで十分に解決可能であるはずです。それが解決しないのは、しようとしない、つまり解決する意志がないだけではありませんか？別の言い方をすれば、ごみ問題を解決するのが得なのか、今解決しないほうが得なのかを判断しているからではありませんか？しかし、たとえごみ問題を科学的、経済的に解決したとしても、大きな問題が残るのではないかと思うのです。そんな意味で、ごみ問題は文化の問題をも内蔵しているようにおもえます。

生きビンの話し

回収からリユースまで厳しい現状

㈲山岸商店社長　山岸　柳馬

東多摩再資源化事業協同組合の皆様方には常日頃多大なるお世話になり感謝申し上げます。さて今回編集長様より壜の流通について寄稿する様との申し入れを頂きましたが考えてみますと、既に自治体の公報やパンフレット等により、一般的な流通経路については周知の事と思いますので改めて書くとなれば複雑な業者間の経路という事となりますので割愛させて頂き、壜の歩んで来た道を振り返り、現在行なわれている壜のリユース（生壜はそのまま再使用されますのであえてリユースと言わせて頂きます）の問題点の一、二を考えてみたいと思います。

皆様方には、十分御承知の通り、戦後暫くは硝子壜でさえあれば数量がまとまればほとんどの壜は商品として流通しておりました。それが経済の高度成長期に移った頃に、サッカリン、ズルチン、及び防腐剤のサルチルサンが食品添加物としての使用が禁止されました時に、古壜の商品としての流通が一時停止状態となりました。しかしその頃はまだカレットとしてならカレット屋さんの店先なり製壜工場に持ち込んでカレットにすれば一升壜が一本当り五円位にはなりました。しかし無償回収しか出来ないものですから建場（たてば）業者さんは全面的に壜の回収から手を引かれ、雑壜業者は壊滅状態となり一部は酒屋回収に活路を開き、一部は処分場に捨てられた壜カレットに活路を見出したわけです。

その雑壜業者の経験と知識の残っている間に、自治体回収が始まり出したものですから比較的スムースに、子供会、自治会回収及び自治体回収に対応できた次第です。

しかしながら今後生き壜のリユース問題を考えますと余りにも多くの問題点があるものですから、今後、官民挙げての努力が必要になって来ます。次に問題点の一、二を考えてみたいと思います。

まず、人件費の高騰及び土地の高騰から来る問題です。

以前は雑壜商の扱う古壜はすべて結束されて回収出荷されておりましたが、人件費の関係で結束というわけにはゆかず又、在庫するにも結束された物は高く積み上げる事も出来ず倉敷料の増大にもつながりますので現在は大半P函に入れて処理されております。

納入する時にはP函と壜がセットされて出荷されますが、回収壜の大半を占める一升壜の場合、手当てするP函の値段とセットされたものとの値段はほとんど同値ですので、我々の扱い手数料はゼロかマイナスとなってしまっています（但し居払価格です）

次に回収されたリユース壜の品質についてですが、製造物責任者法の制定以後、検収が一段と厳しさを増しており、一番不良率の少ないのは酒店回収で、これは酒屋さんと消費者によって一本、一本回収されますので不良率はコンマ以下になります。次に自治体回収ですが通常P函回収される物は13％、同じP函でも構造により7％から5％位まで改良されます。袋回収ですと20％位まで上がってしまい、さらにそれをホッパーに落としてベルトに移しますともはや論外です。

最後に食品、調味料メーカ

ーが古壜を使用する場合、生産能力が3分の1位迄落ちてしまい、フル生産の時期になりますと新壜のみの使用になり、古壜の使用がストップ状態となり、常に古壜が過剰状態になってしまいます。

この様な状態をいかに克服するかが我々の今後とは言わず今現在の課題ではないかと思います。

なお、酒造業界に於いては一升壜以外はほとんど新壜使用となってしまっています。

以上取り止めのない事を書き貴重な紙面を汚す結果となると思いますがご容赦願います。

第四会通常総会盛会裡に終了
古紙価格暴落に組合員の協力体制強化を確認

東多摩再資源化事業協同組合の第四回通常総会が去る五月二十三日（金）に小平市の『ルネ小平』において五時から行われた。奥山眞吾氏の司会ではじまり、藤本副理事長の開会の辞、続いて紺野理事長の挨拶があり、議長に藤野副理事長が選出されて審議にはいった。慎重にかつ活発に第一号議案から第四号議案まで審議され全議案が満場一致で可決された。その後、工学院大学講師で小平市廃棄物減量審議委員をしておられる後藤弘太郎先生から「これからのリサイクルそして廃棄物事業に対する新たな考えかたや指針」などのお話があり、今後の組合運営に貴重なご指導を頂いた。柳泉園助役廣部様をはじめ関係各市の環境部部課長様、ご協力関係機関様、そして賛助会員各位と多数の来賓をお迎えして交流会が行われた。紺野理事長は『現在の厳しい状況の中でこれから大事な事は強力な組合員の団結と各市をはじめとした関係各位のご支援ご協力と事務局体制の整備が必要』との挨拶がありました。また多くの来賓の方々から激励のご挨拶をいただき、われわれ組合員一同大いに勇気づけられた。その後、組合員とご来賓の皆様とのなごやかな交流が行われ無事本総会は終了した。関係各位のご協力誠にありがとうございました。（藤野記）

リサイクル川柳

資源物
再生出来ず墓場行き

穴開け作業
残ガス苦しいスプレー缶

古紙回収
いつまで続く低価格
（へそまがり）

古紙業者
ムツゴロウより後回し

古紙満杯
そんなに作るな売るな紙

粗大ごみ
生ごみ提げてご出勤
（つむじまがり）

ご投稿のお願い

本紙を読まれた市民の皆様もご意見、ご感想、リサイクル川柳などお寄せ頂きたく、お願いします。

集団回収 七月より 関係各市が回収業者にも支援策

集団回収委員長　小畑　和夫

昨年秋から古紙の流通が厳しくなると共に古紙価格の下落が続き、今年に入ってからは今まで経験したことのない低価格になり集団回収の継続が非常に困難な状況に至っております。この事は当組合のヴィーナス通信や、古紙回収大ピンチをお知らせしたチラシ、又最近ではマスコミに取り上げられご存じの方も多いと思います。

この様な事態を受け昨年十月に集団回収業者にも支援をと各市（小平市・東村山市・田無市・東久留米市・清瀬市）に要望書を提出、今年に入ってからも古紙回収大ピンチのチラシなどを各市に配布し、引き続き業者支援をお願いしてまいりました。特に今年二月頃からは新聞・段ボール古紙価格が1kg4～5円、雑誌が0～-2円になり回収経費（8～10円）を大きく下回り、又各問屋の古紙の在庫も異常に増大し、回収業者によっては雑誌の受入れを一時ストップしたり、集団回収自体が壊れ始めました。そのため柳泉園リサイクルセンターも四月末に飽和状態になる事態が生じてきました。

このため田無市・東久留米市・清瀬市は集団回収業者にも七月一日から田無市・東久留米市は古紙三品（新聞・段ボール・雑誌）に一律4円、清瀬市は新聞・段ボールに2円、雑誌に4円の支援策を決定し、実施して頂きました。

業者支援は市から当組合に一括委託する形で進められ、組合が登録業者をとりまとめて、委託料の分配に当たることになりました。六月中旬より組合は各市の協力を得て、業者に対する説明会を開き、七月一日より無事事業が開始されました。

なお以前から業者にも助成金を出していた保谷市も古紙三品を4円に上げ、又小平市・東村山市・東大和市とも対話を続けており、前向きに検討していただいております。

各市からの支援を受けるにあたり組合としても責任ある回収業務を遂行して行かなければなりません。各回収団体におかれましては、今まで通り御協力を、そして又各市におかれましても変わらぬ御支援をお願い申し揚げます。

私の履歴書 ④

(有)藤本チェーン
代表取締役社長　藤本俊光

除州除州と人馬は進む！それは軍国主義はなやかなりし時代の軍歌。武装解除された私達は自動小銃に守られながら隊列を組んで北へ！北へ！黙々と何日も何日も歩いた。集結地『牡丹江』より貨車に乗せられて東へ、日本へ帰られるんだと久々に明るい車内だったのに、いつの間にか列車は西へ、西へと走りはじめバイカル湖をすぎてもさらに西へ!!1ヶ月かけてシベリヤ横断の旅だった。その広いこと。下車した所は高い塀に囲まれた収容所、零下五十度以下の日もあるというのにみすぼらしいテント村。夢遊病者の集まりのような私達が毎日やる仕事は、原始林を伐採し、材木や薪つくり、土葬される戦友の墓穴を掘ることだった。何回か収容所を移動して三年目からの仕事は、第二シベリヤ鉄道の建設だった。その年から私達のために日本語の新

聞が発行され、民主教育が始まった。マルクス、レーニン主義やソ同盟の歴史などを勉強し、いつの間にか私は唯物論者になっていた。シベリヤ生活四年目の春『ダモイ』（ロシア語で帰ると言う意味）となり帰国の途に、貨車に乗せられ東へ移動し、ナホトカから日本の船で舞鶴港へ、最初に迎えてくれたのはアメリカの兵隊さんだった。指名され特別上陸、それがシベリヤ留学？の成果かもしれない。

古紙価格暴落・行政回収に古紙集中の現象

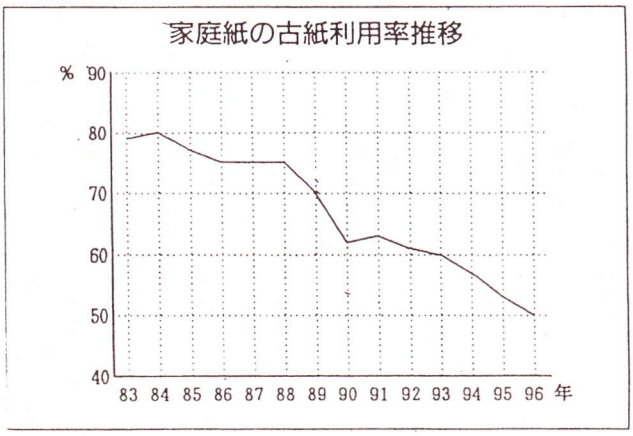
1997年4～6月組合委託事業の資源取扱量（kg）

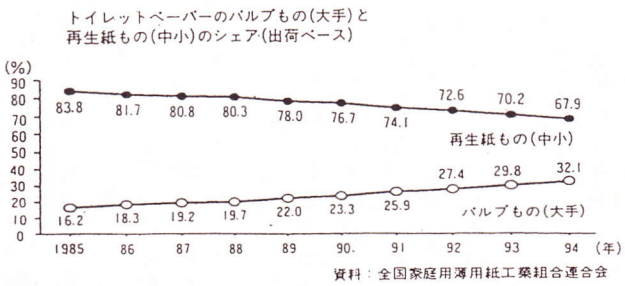
	古紙	古布	生きビン	鉄・非鉄
小　平	1,674,570	197,790	79,765	231,782
柳泉園	2,129,680	170,060		
東村山	498,270	85,990		
東久留米				91,550
東大和			26,949	57,255
合計	4,302,520	453,840	106,714	380,587

当組合の4月から6月までの資源化量を昨年と比較すると、古紙が昨年同期より1千トン以上も増加している。これは昨年秋以降、続落しつずけた古紙価格の影響で民間回収が低迷し、行政回収に集中してきたと推察される。この底値の価格破壊は消費者、行政、回収機構に有利に作用せず、逆にリサイクル破壊の強烈な副作用を伴って進行している。

ご存じですか？

家庭紙（トイレ紙ティシュ等）の古紙混入率が50％を切りこの12年間で30％もダウンした。特に、大手製紙メーカーによる純パルプ製品の生産と売込みが凄まじい。今年もまた2台の新増設マシンが、純パルプ物トイレットロールの生産を実施しようとしている。





かつてわが国のトイレットペーパーは、オール古紙100％ものだった。しかし、純パルプものにおされ今現在、シェアは7割を切った。

先日、メルボルン大学から製紙産業の調査研究に来日中のイアン・ペンナ氏にお会いした折、このグラフを見て頂いた。曰く『国が進めているリサイクル56計画はどうなっているのですか。このことを日本国民は知っているのですか。日本は優れた古紙リサイクル国では無かったのですか。』

行事・行動

(四月)
一一日：定例理事会
一五日：小平市ペットボトル工場開所式
一六日：集団回収委員会
二一日：全原連古紙利用促進決起大会
二三日：広報委員会
二四日：古紙C業務委員会
二八日：R団連古紙部会

(五月)
六日：小平市リサイクルフェステバル委員会
八日：多摩R団連幹事会
九日：東村山市ごみ減量審
：柳泉園四市と懇談会
一二日：定例理事会
一六日：東久留米ごみ減量審
二〇日：臨時理事会
二三日：第四回定期総会
二八日：古紙余剰問題研究会

(六月)
三日：多摩R団連と多摩地域清掃協との懇談会
五日：市民と国会議員の会シンポジュウム
七日：古紙問題市民ネットシンポジュウム
：小平RC責任者会議
一一日：定例理事会
一三日：古紙C業務委員会
：東久留米ごみ減量審
一九日：東久留米市集団回収事業業者説明会
二〇日：委託事業委員会
：福利厚生委員会
二四日：田無市集団回収事業業者説明会
二六日：東村山市環境部懇談
：清瀬市集団回収事業業者説明会
二七日：委託事業委員会

(七月)
三日：東大和市業者懇談会
四日：古紙余剰問題研究会
七日：小平市リサイクルフェステバル委員会
一〇日：財務委員会
：定例理事会
一六日：広報委員会
一七日：東久留米ごみ減量審
一八日：広報委員会
一九日：小平市ごみ減量審
二二日：古紙C業務委員会
二三日：広報委員会
二六日：組合員家族懇親会
二九日：古紙余剰問題研究会
三一日：東村山市ごみ減量審

夢見鳥

先月仕事で熊本にいったおり、とてもためになるお話をきいて参りました。簡単に申しますと、常に変動する価格のなかの利益だけを追いかけている商売に明日は無いと言われました。また、右から集めて左に売って利益をとる仕事なら運送業の方がスマートで、機動力があるから仕事は取られてしまいますよ、とも言われ大変ショックを受けてかえって参りました。言われた事を二度三度思いかえしては、一つ一つの仕事に真剣に取り組んでおります。(二刀)

◆編集後記◆

本号の直言拝聴にご寄稿下さいました、佐藤八十八先生ありがとうございました。

私達の普段使っている言葉のなかにも相手にとっては酷く傷ついてしまうモノがあるのではないでしょうか。自らの差別意識や差別感覚をもう一度考えて見て下さい。

福島のいわき大王製紙(株)が、ダンボール原紙は八月十七日より、新聞用紙は十一月十日から試運転に入るそうです。新聞は一年たったら古紙を80%入れるそうです。暗闇の中の一筋の光明ように私には感じられます、希望をもって働きましょう。

暑い夏がやって参りました小平、柳泉園のリサイクルセンター!で働いている方々のみなさん、睡眠と食事はしっかりとって夏ばてしないように気をつけて下さい。(吉浦)